

# 公開実用平成 1- 88631

⑩日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

平1-88631

⑬Int.CI.\*

B 65 H 1/26

識別記号

310

庁内整理番号

L-7716-3F

⑭公開 平成1年(1989)6月12日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮考案の名称 使い捨て式カセット容器

⑯実 願 昭62-184495

⑰出 願 昭62(1987)12月3日

⑲考 案 者 亀 山 賢 士 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

⑳出 願 人 株 式 会 社 リ コ ー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

BEST AVAILABLE COPY

明細書

1. 考案の名称

使い捨て式カセット容器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 記録装置本体に装着されるカセット容器であって、所定サイズの記録紙が予め内部に収納され、内部の記録紙が全て使用されて無くなつたときは、空になつたカセット容器を捨てて記録紙が収納された新しいカセット容器を記録装置本体に装着するようにしたことを特徴とする使い捨て式カセット容器。

(2) 前記カセット容器の側部に、前記記録装置本体に係止してカセット容器を取付けるための係止手段と、内部の記録紙の残量が外部に見える残量表示窓とを設けたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の使い捨て式カセット容器。



### 3. 考案の詳細な説明

#### 〔技術分野〕

本考案は、ファクシミリ、複写機、あるいはプリンタ等の記録装置に用いる記録紙のカセット容器に関する。

#### 〔従来の技術〕

従来複写機に使用している記録紙用カセット容器は、丈夫なプラスチック等で出来ているためにコストが安くない。また、カセット容器内の記録紙が無くなつたときはカセット容器を記録装置本体から外し、新たに記録紙をその中に補給しなければならない。このため、その補給時に記録紙の先端をきれいに揃えるのに手間がかかるだけでなく、記録紙に直接手が触れるために記録紙が汚れるおそれがある。

また、ファクシミリにおいてはロール巻きの記録紙が用いられ、装置内にロール巻きの記録紙を一度補給すると装置内が見えず、紙が無くなつても気が付かないで受信不能になることが多い。そしてやはり紙に直接手を触れるために汚れるおそ

れがあるという問題点がある。

〔目的〕

そこで本考案は、使い捨ての安いカセット容器に予め記録紙を収納しておくことにより、カセット容器が高価にならず、記録紙を一々揃えて補給しなくとも済み、直接紙に手を触れないので汚れず、紙の残量も一目で分かるようなカセット容器を提供することを目的とする。

〔構成〕

本考案は上記の目的を達成するため、記録装置本体に装着されるカセット容器であって、所定サイズの記録紙が予め内部に収納され、内部の記録紙が全て使用されて無くなつたときは、空になつたカセット容器を捨てて記録紙が収納された新しいカセット容器を記録装置本体に装着するようにしたことを特徴とするものである。

〔実施例〕

以下、本考案の実施例について図面に基づいて説明する。第1～5図は本考案による使い捨て式カセット容器の一実施例を示す図である。

第1図において、1は箱形のカセット容器であり、このカセット容器1は段ボールや厚さ1mm位のボール紙、あるいは安価な薄手のプラスチックで形成され、捨てても惜しくないような安価なものである。カセット容器1の内部には市販時から予め所定サイズの記録紙2（たとえば感熱プロック用紙）が収納されており、この記録紙2の一端部（図中左端部）はカセット容器1の開口部1aから最高で15mm位外側に突出している。この突出した記録紙2の端部は、下になる程突き出し量が少なくなるようにカセット容器1内にセットされている。カセット容器1の開口部1aには、第2図に示すようにファクシミリ本体4（記録装置）に装着する前は、第1図に破線で示すような箱形のカセットカバー5が嵌合していて記録紙2を保護している。

カセット容器1の側部には第3図に示すように一対の係止部7（係止手段）が形成され、この係止部7を第4図に示すようにファクシミリ本体4の一対の係止爪8に係止させることにより、カセ

ット容器1をファクシミリ本体4に装着することができる。また、カセット容器1の側部には記録紙2の残量表示窓10が開口して設けられており(第5図)、この残量表示窓10により記録紙2の残量が外部から容易に見えるようになっている。

このような使い捨て式カセット容器は、当初は第1図に示すようにカセット容器1にカセットカバー5が嵌合していて、これをファクシミリ本体4に装着するときはカセットカバー5を外し、その開口部1a側からファクシミリ本体4内に挿入して係止部7を係止爪8に係止させることにより行なう。第2図はカセット容器1がファクシミリ本体4に装着された状態を示し、記録紙2の最上部の上にはピックアップコロ11が接触しており、記録紙2の突出し先端部には分離ゴム13が配置されている。ファクシミリ本体4が通信相手先から受信すると、ピックアップコロ11が回転して分離ゴム13と協働して記録紙2を最上部から1枚ずつ送り出す。

このとき記録紙2の先端部は下になる程突出し

量が少なくなるよう傾斜して揃えられているため、分離ゴム 13により1枚ずつ順次に確実に送り出すことができ、一度に2枚以上送り出されるようなミスフィードが少ない。送り出された記録紙2は上・下ガイド板14、15の間を通ってサーマルヘッド17により記録紙2に受信内容を記録する。そして記録後に一对の排出ローラ20により外部へ排出される。

このような一連の受信記録装置21の上方のファクシミリ本体4には、通信相手先へ送信するための一連の送信装置23が設けられている。ちなみに送信装置23を構成する24は分離ローラ、25は分離ゴム、27、28はプレッシャローラ、31はR1ローラ、32はR2ローラ、34は光源である。

記録紙2が使用により減ってくると、カセット容器1の残量表示窓10がファクシミリ本体4の外側に位置しているためその残量が残量表示窓10から容易に見えるので、次の記録紙2の準備をするのに都合が良く、用紙切れによる受信不能

により通信相手先に迷惑をかけることを防止する  
ことができる。

記録紙2が使用し尽くされて無くなつたときは、  
空になつたカセット容器1をファクシミリ本体4  
から外して記録紙2が収納された新しいカセット  
容器1を、そのカセットカバー5を外すだけで保  
止部7と係止爪8との係止により瞬時にカセット  
容器1をファクシミリ本体4に装着することができ  
き、迅速に次の受信に備えることができる。

なお、上記実施例においては使い捨て式カセッ  
ト容器をファクシミリに用いたものについて説明  
したが、複写機あるいはプリンタ等の他の記録装  
置に用いてもよい。

#### 〔効果〕

以上説明したように本考案によれば、従来のよ  
うに高価なカセット容器を必要とせず安い使い捨て  
のカセット容器で済み、また記録紙の補給時に  
一々紙の先端を揃える必要もなく紙補給が簡単に  
行なえ、さらにそのときに直接紙に手を触れない  
ので記録紙の汚れを防止することができる。

また、上記一実施例によれば、記録紙の残量も一日で分かるので、補給紙の準備を忘れたり、用紙切れによる受信不能により通信相手先に迷惑をかけることをも防止することができる。

さらに、1枚ずつ順次に確実に送り出すことができ、一度に2枚以上送られるようなミスフィードを防ぐことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1～5図は本考案による使い捨て式カセット容器の一実施例を示す図であり、第1図は使い捨て式カセット容器の斜視図、第2図はファクシミリ本体4への装着状態を示す側面図、第3図は使い捨て式カセット容器の平面図、第4図はファクシミリ本体4への装着状態を示す平面図、第5図は使い捨て式カセット容器の側面図である。

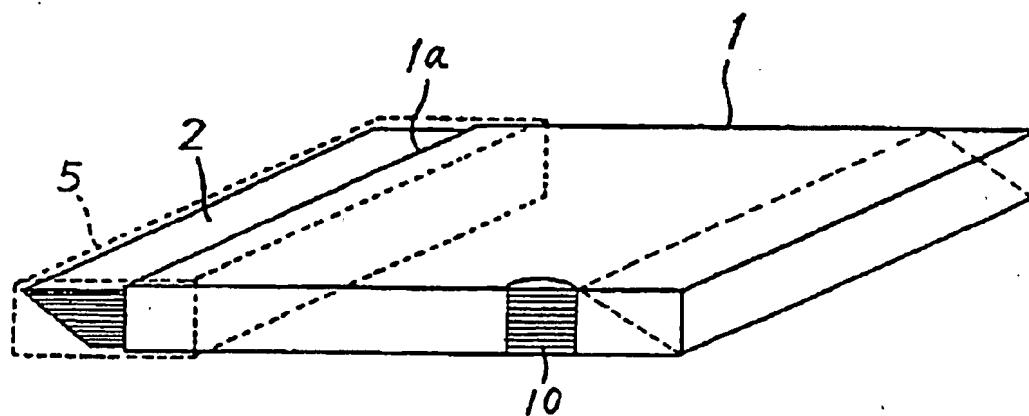
1 ……カセット容器

1 a ……開口部

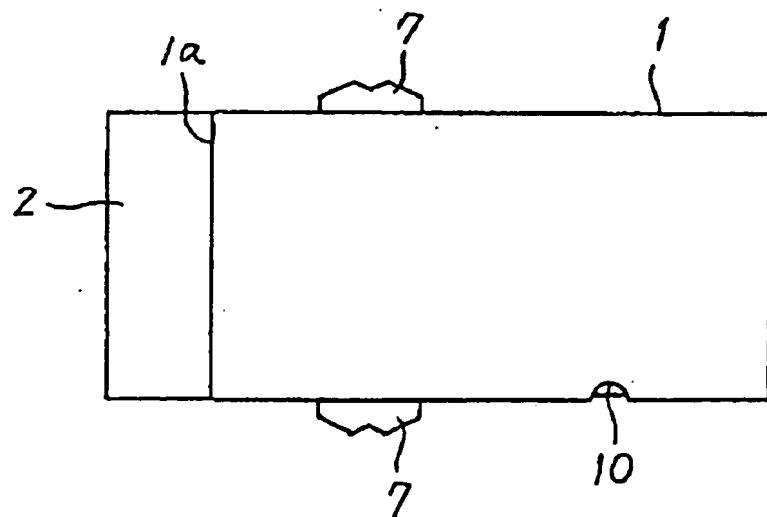
2 ……記録紙

4 …… ファクシミリ本体（記録装置本体）  
5 …… カセットカバー  
7 …… 係止部（係止手段）  
8 …… 係止爪  
10 …… 残量表示窓  
11 …… ピックアップコロ )  
13 …… 分離ゴム  
14 …… 上ガイド板  
15 …… 下ガイド板  
17 …… サーマルヘッド  
18 …… プラテンローラ  
20 …… 排出ローラ  
21 …… 受信記録装置  
23 …… 送信装置  
24 …… 分離ローラ )  
25 …… 分離ゴム  
27、28 …… プレッシャローラ  
31 …… R1 ローラ  
32 …… R2 ローラ  
34 …… 光源

第 1 図



第 3 図

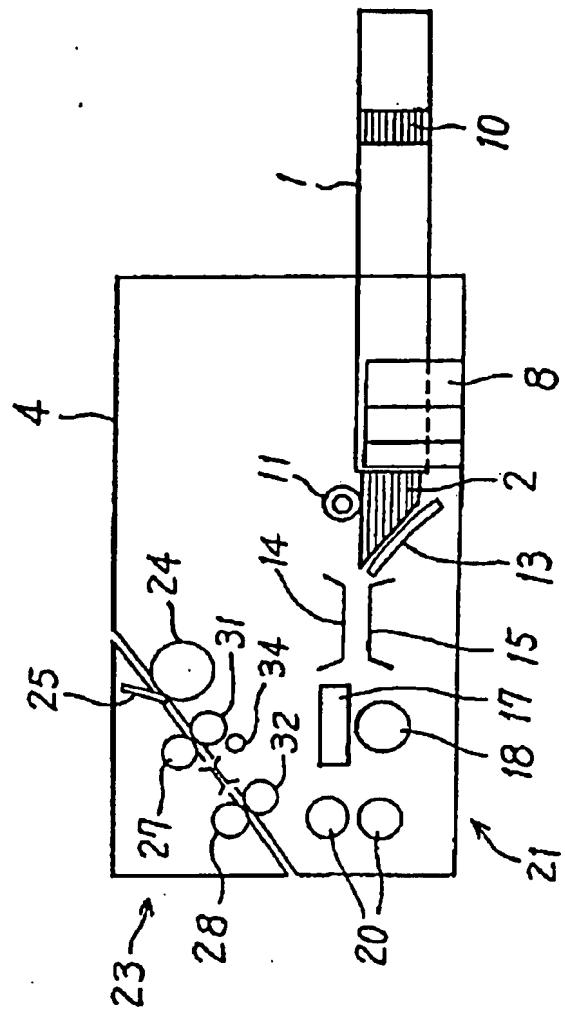


455

出願人 株式会社リコー

公開 1-88631

第2図

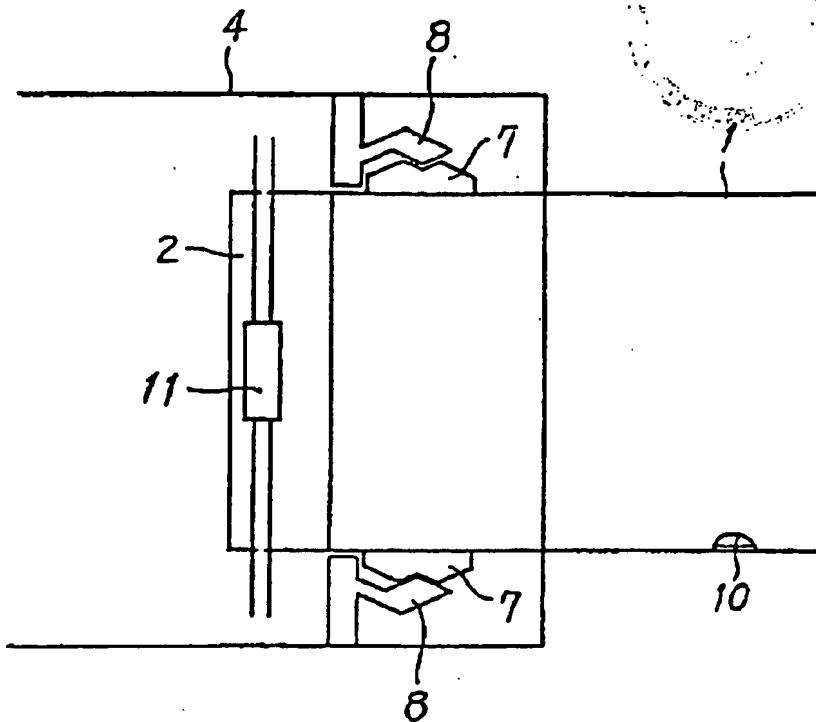


456

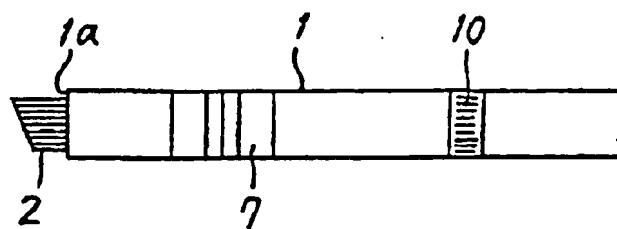
出願人 株式会社リコー

実開1-88631

第 4 図



第 5 図



457

出願人 株式会社リコー

案内 1 - 88631